

小坂よしひさ 粋いき台東へ 身近な区民のサポーター！ 台東粋いき新聞

—KOMETO—
公明党
平成29年度
22号



平成29年
第1回定例会

予算特別委員会にて総括質問

第1回定例会の予算特別委員会(3月6日～27日)において、3月21日に総括質問を行いましたので質問要旨を掲載いたします。

契約事務について

- Q**
- リースの活用に向けた、区としての基本的な考え方はどうか。
 - 単年度の随意契約を次年度以降も同一事業者と締結している学校給食の調理委託などは、長期継続契約とすべきと考えるがどうか。
 - 委託契約の偽装請負への対策は、現在どのように行っているか。



3月21日の総括質問に登壇

- A**
区長
- 物品調達について、物品の種類、耐用年数、経費の総額や経費の平準化、また、保守などの付随するサービス等を案件ごとに判断し購入に比べ有利になる場合にはリース契約を活用している。
 - 役務の提供における長期継続契約については、安定的な業務提供が受けられるというメリットがある一方、契約期間の長期化により、サービスが低下する可能性があるというデメリットがある。学校という履行場所の性質上、安全かつ安定的な水準を確保するため、単年度の随意契約を継続して行う。多様化する契約方式の中で、現行の方式も含め、最適な方法を検討していく。
 - 偽装請負にならないよう、全庁的に文書で注意喚起を行うとともに、それぞれの案件において、仕様書の内容を確認するなど対応を行っている。今後も契約事務の適正な執行に努めていく。

A
区長

児童・生徒一人ひとりが認知症についての基本的な知識を持ち地域において、認知症の方をサポートする担い手となれるよう、引き続き小学校での養成講座を実施するとともに、中学校での実施に向けて教育委員会と協議し取り組む。

校務事務の改善について

- Q**
- 校務事務の改善について、29年度における予算措置は。
 - 教職員の勤務状況について、どう把握しているのか。また、勤務状況からどのようなことが分かるか。
 - 副校長の校務事務の実態について伺う。
 - 全教職員の校務事務の改善に向けた取り組みについて伺う。

A
教育長

- 校務支援システムの運用に要する経費を計上し、このことにより会議時間の短縮、学校間の円滑な連絡が可能になっている。
- 教員が時間を多く費やすと感じる業務は、「毎日の授業準備」や「各種通信作成や環境整備などの学級経営事務」とあるが、これらの業務について必ずしも負担とは感じていない。一方、「調査やアンケート対応」「教育委員会への計画・報告書などの事務手続き」について時間を要するだけでなく、負担にも感じている。
- 学校が抱える課題が、一層複雑化・多様化したことに伴い、副校長の役割は変化している。学校経営や人材育成など、副校長が担っている事務量は多く、支援が必要であると認識している。
- 調査や計画書・報告書の作成等について精査し、教員の事務量の削減に努める。副校長に対しては、研修を充実させ効率的に事務処理が進められるよう、組織的・継続的な支援を行う。東京都でモデル実施している副校長の複数配置や負担軽減策について、十分検討する。

災害図上訓練「LODE」について

Q

「LODE」は災害時要配慮者の避難誘導に焦点を当てた図上訓練である。区内のマンションや団地において実施する訓練として「LODE」を取り入れ、区民の防災意識の向上を図るべきと考えるがどうか。

A
区長

区民の災害対応力の向上を図るため、災害時の図上訓練として、「DIG」や「HUG」を実施してきた。「LODE」は集合住宅を対象とし、高齢者など災害時に配慮が必要な方々の避難方法を検討する新たな手法であると認識している。今後、更に情報収集に努め、実施も視野に入れて研究を進めていく。

認知症支援の推進について

Q

認知症について区民の幅広い層への普及啓発が大切であり、そのため、啓発活動を子供にも拡大することで、認知症に対する地域力を高めることができると考える。そこで、小中学生を対象とした認知症を理解する講座の充実や、学校の要請に応えた出前講座の実施が大切であると考えがどうか。

平成29年
第1回定例会

代表質問に登壇

平成29年第1回定例会にて公明党を代表し、2月18日に質問を行いましたので要旨を掲載いたします。



2月18日の代表質問に登壇

「区政70周年」と今後の台東区について

- Q**
- 本年、区政70周年を迎える本区の行政課題とは何か。
 - 上野・浅草以外の地域の魅力をどのように発信していくのか。また、台東区という地域ブランドを国内外へ更に知らしめていくべきと考えるが。
 - 国際文化観光都市として一層の飛躍を遂げ、日本の活性化に寄与する成果を全国へ波及させるため、地方との更なる連携の推進が大切であると考えが。

A
区長

- 大規模災害への備えや外国人観光客への対応等、課題は山積しており、これらに対応するため、新たな基本構想の策定に着手していく。
- 台東区観光振興計画において、多彩な魅力の発信を掲げ、国内外へのシティセールス等を行っている。今後も魅力的な地域資源を掘り起こし、情報発信の強化により、地域ブランドの向上を図っていく。
- 鉄道路線につながる地方都市との連携により、広域観光ルートの確立を推進している。区内では、様々な自治体の情報発信等により商店街の活性化を図るため、ふるさと交流ショップを新設する。

「支え合いの共生社会」の実現に向けて

- Q**
- 本区における介護・保育人材の現状と課題の解決に向けた取り組みについて伺う。
 - 妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援が複合的になりつつあるため、ワンストップで相談を受けられる体制づくりに向け、子育てアシストを活かしていくべきと考えるが。
 - 高齢者の豊富な知識等を地位などで生かして活躍してもらうことは、本人のみならず区にとっても大きなプラスとなる。高齢者を福祉の担い手として登用し、働き続ける環境づくりに取り組むべきであると考えが。

A
区長

- 人材確保や育成は重要な課題である。区では、職員の負担軽減に向け、介護ロボット導入経費の助成等、事業者を支援している。保育人材の確保も喫緊の課題である。対策として、区では研修の支援等を行い、今後も福祉人材の確保等に取り組んでいく。
- 本庁舎に子育てアシストとして相談員を配置し、専門窓口の案内等、幅広い情報提供や保健所出張育児相談に同行している。今後、子ども家庭支援センターにおいても、定期的な相談日の設定など、活躍の場を広げていく。
- シルバー人材センター等を通じた高齢者の働く場の確保や、今年度から開始した家事援助サービスにより、就業機会の拡大を図っている。地域共生社会の実現を目指し、高齢者が積極的に活躍できるよう取り組む。

平成29年度予算案について

Q

29年度一般会計当初予算案は、特別区交付金の減少を見込む中、様々な行政需要が増加するなど、過去最大の予算規模となったが、どのような思いで予算を編成したのか。

A
区長

区民が安心して暮らせることを第一に、待機児童対策等の様々な区民サービスを充実している。更に、基本構想の策定等の取り組みとともに行政計画に基づく事業へ重点的に予算措置を行った。

新たな陣容で出発！

台東区議会第1回臨時会(5月18日)において議会三役が選任され、区議会公明党として新しい陣容で出発しました！

【議会三役】

河野 純之佐 議長
望月 元美 副議長
松尾 伸子 監査委員

【会派構成】

区議会公明党幹事長 小菅 千保子
副幹事長・政調会長 小坂 義久
会計 寺田 晃

【所属委員会】

企画総務常任委員会 ▶ 小坂 義久
区民文教常任委員会 ▶ 松尾 伸子
保健福祉常任委員会 ▶ 寺田 晃
産業建設常任委員会 ▶ 小菅 千保子、中澤 史夫(副委員長)
子育て支援特別委員会 ▶ 小菅 千保子(委員長)、小坂 義久
環境・安全安心特別委員会 ▶ 寺田 晃
文化・観光特別委員会 ▶ 小菅 千保子、松尾 伸子
交通対策・地区整備特別委員会 ▶ 寺田 晃、中澤 史夫



ごあいさつ

台東区議会18期がスタートして早や2年が経過し、区議会も新しい体制で出発しました。議長に河野純之佐議員、副議長に望月元美議員、議会選出監査委員は我が会派の松尾伸子議員ということで、この後半の2年間も台東区が抱えている様々な課題に対し、スピーディーかつ大胆な施策を展開するよう提案してまいりたいと決意しています。

私の信条は「政治は結果」であり、「智慧は現場」にある。この思いで、今まで議会活動を懸命に行っていました。政治は誰のためにあるのか!見かけやポーズ、パフォーマンスを厳と見破り、より一層、謙虚に!報恩の気持ちで丁寧な対応を心がけてまいりたいと思います。

区議会公明党
視察報告

精力的に区内外を問わず視察を行い、
議会質問などで取り入れています。

2月8日
区立台東区民会館
観光バス駐車場を視察

●全国初、観光バス条例施行!

台東区は3月27日、区内に観光バスが乗り入れる際の基本的なルールを定めた「東京都台東区観光バスに関する条例」を施行。

これまで公明党として、議会質問や予算要望などを通過して、観光バスの運行ルールづくりなどを訴えてきました。



3月28~30日
三重県鈴鹿市、鳥羽市を視察

●アズワンコミュニティ鈴鹿

アズワンとは、「一つの世界」を意味し、世界中のみんなが、仲良く一つになって進歩発展していくという考えの下、新しいコミュニティ社会を展開している団体です。



●NPO法人伊勢志摩バリアフリーツアーセンター

バリアフリーの観光情報を身体の不自由な旅行者や高齢者に案内するとともに、この地域のバリアフリーなおもてなしを、設備面だけでなくソフトにおいても行き届いた地域に近づけることを目的に設立された、日本で最初のバリアフリーツアーセンターです。



4月21日
上野公園駐車場を視察

上野公園には国や東京都の文化施設があり、国内外からの観光客が多数見え、観光バスが増加しています。金・土・日は特に観光バスの駐車スペースが足りない状況にあります。この課題は台東区と東京都・国が協力し進めていく問題であると思います。



台東区発足70周年
関連事業を実施します

今年、昭和22年に旧下谷区と旧浅草区が合併し、台東区が発足して70年にあたります。年間を通じ70周年を記念する各関連事業を実施します。



海外プロモーションを
推進します

海外で行われる展示会に関係支援機関と連携しながら台東区として出展し、中小企業の製品や地場産業・伝統工芸産業の紹介を行います。



上野駅公園口周辺の
整備を行います

上野駅公園口エリアを、都の文化・観光拠点のエントランスに相応しい風格ある広場とするため、東京都、台東区、JR東日本と連携し整備に着手します。



さわやかトイレの整備を
進めていきます

平成29年度は、池之端2丁目公衆トイレ、小島2丁目交番裏公衆トイレ、山谷堀公園トイレの3カ所の整備を行います。



池之端2丁目公衆トイレ



小島2丁目交番裏公衆トイレ



山谷堀公園トイレ

子育て支援を充実させます

平成29年度以降、保育施設の整備として13施設、約700名分の増設を目指します。また、4月より多様な働き方に応じた保育需要に対応するため、児童を一定期間保育する施設を根岸5丁目に開設しました。保護者の経済的負担をより一層軽減するため、私立幼稚園入園祝金を現行の3万円から5万円に引き上げました。

産後ケアとして、心身の不調等がある産後の母子に対し助産師によるケアや育児サポート等行うなど、「妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援」を充実させます。



『(仮称)台東区文化プログラム』を策定します

2020東京大会を契機とした文化芸術活動の機運醸成を踏まえ、2020年に向けた事業展開と、その後を見据えたさらなる文化振興を目的とした『(仮称)台東区文化プログラム』を策定します。

大規模用地活用の検討で方向性を示してまいります

旧坂本小学校(下谷)、旧東京北部小包集中跡地(清川)の跡地活用について、事業の可能性を検証し整備手法などの検討を進め地域の意見を取り入れながら区として活用案をまとめていきます。



旧坂本小学校

Hot News

2017年6月12日(月)、上野動物園のジャイアントパンダのメス「シンシン」が出産しました!元気にすくすくと育っています。

